

講義内容

現代社会研究

Studies in Contemporary Society 2単位

現代社会の諸相や政策を文学研究科の観点から分析し、高等教育としての研究意義を共有する。ここではオムニバス方式で授業が行われ、現代社会を異なる角度から検証する。取り上げるテーマは、現代の社会学および社会倫理、現代の人間を取り巻く課題、現代の教育課題および教育政策、現代社会における言語と文化、である。それぞれのテーマを担当する教員から研究内容の解説が行われ、あわせて課題レポートの提出が求められる。受講者はこの授業をとおして各自が追究する研究課題の位置づけを明確にする。

- (1) 現代の社会学および社会倫理
- (2) 現代の人間を取り巻く課題
- (3) 現代の教育課題および教育政策
- (4) 現代社会における言語と文化

アカデミック・リテラシー

Academic Literacy 2単位

文学研究科で論文を執筆し、学会や研究会で発表することを想定した授業を行う。論文の要件やプレゼンテーションの手法を学ぶと同時に、関連学会についての理解も深める。ここではオムニバス方式で授業が行われ、担当教員の講義とそれを基にした演習が行われる。取り上げるテーマは、関連学会の紹介および研究発表の概要、データ収集および統計処理、言語コーパスなどの研究ツールの紹介と使い方、英語論文の要件と書き方、である。この授業をとおして研究論文の質的レベルを確認し、各自の研究が効果的に遂行できるようにする。

- (1) 関連学会の紹介および研究発表の概要説明。
- (2) データ収集および統計処理。

- (3) 言語コーパスなどの研究ツールの紹介および使用。
- (4) 英語論文の要件および書き方。

EFL 500

EFL500 2単位

EFL 500 This course is designed to develop students' academic literacy in English. Students are expected to acquire skills necessary for academic presentations as well as writing in their areas of specialty.

Primarily designed for 1st year graduate students of Humanities, though graduate students in other disciplines as well as qualified undergraduate students may enroll with permission.

人間学研究

Studies in Humanity 2単位

「人間とは何か?」という問いは、古くて新しい問いである。古来から、「人間」については探究のテーマとされてきたが、近代にいたって「人間」はあらゆる人文科学の準拠点とされた。こうした変化が何を意味するのか、またいかにして生じたのかが問い直されなくてはならない。しかし、現代では、こうした中心化された人間学は、諸科学の発展によって分散化し、多様な人間学が構想され始めている。これは、現代における人間の地位にも関連している。この講義では、現代における人間学の知見を解明することによって、人間の現代的な状況を理解する。

思想文化研究

Studies in Culture and Thought 2単位

古くは中国から学び、明治以降は積極的に欧米から学問を移入し、今日を迎えた日本において、「思想」とは何か、「文化」とは何かについて考え、グローバル化が進行しつつある現代社会における「思想」および「文化」の未来について展望する。多様な世界および文化圏が混ざり合っていく中で、「思想」と「文化」がどのように形成されてきたのかについて歴史的・哲学的に理解を深める。授業は主として講義および討議によって理解を深めていく。

思想文化演習

Seminar in Culture and Thought 2単位

「思想」とは何か、「文化」とは何かについて、文献講読を手がかりに参加者間で討議を積み重ねることを通じて考えるとともに、思想としての「人間」、文化としての「人間」について考察する。今年度は18世紀ドイツ近代の「人間」観を取り上げることとし、カントの『実用的見地における人間学』に認められる「人間」、中でも認識能力の項の精読をもとに浮き彫りとなる「人間」について理解を深める。

西洋思想史研究

Studies in the History of Western Thought 2単位

ヨーロッパにおける「思想」および「文化」の言説の歴史について考察する。この研究領域において1980年代以降ドイツ・ベルリン学派を中心とした欧米の歴史的人間学的研究の蓄積からいくつかのテーマを選び出して紹介・検討し、「思想」の歴史性と多様性を具体的事例に当てはめながら実感的に掴まえていく。今年度は主として「身体」「メディア」「文化」をキー概念として西洋思想の言説の歴史を概観する。

表象文化研究

Studies in Culture and Representation 2単位

現在、世界規模での社会変動によって、文化状況も加速度的に多様化し、流動化しつつある。こうした現代文化の変容の中で、「表象」の分析という観点から、文化事象全般に対してアプローチするのが、この講義である。そのため、この講義では、文化的事象を孤立した静的対象として扱うのではなく、それが生産され流通し消費される関係性の空間を問題にし、政治的でダイナミックな行為の空間の生成と構造を考察する。

社会倫理学研究

Studies in Social Ethics 2単位

倫理学はアリストテレス以来、社会的な規範の学と考えられてきた。したがって、倫理学の諸問題を解明するためには、社会的な観点が必要不可欠である。人間が社会において存在する限り、倫理学は社会倫理学として考察しなくてはならない。従来、倫理学を考えると、個人主義的な内面的道徳からアプローチされてきた。しかし、この講義では、人間が他の人々と織りなす社会的連関から、具体的な倫理的問題を明らかにしていく。社会倫理学は、もともと学際的研究であるかぎり、政治学や経済学、社会学や法学の知見を参照しながら、現代社会における倫理学の意義を確認する必要があるだろう。

応用倫理学演習

Seminar in Applied Ethics 2単位

応用倫理学 (Applied Ethics) は、一般には、特定領域に既存の規範倫理学を適用し、その領域での倫理的問題に一定の解決を図ろうとするものである。しかし、その領域にそもそもどのような規範倫理が適用できるのかという根本的な問題が生じることも、さらに既存の倫理規範やその下にある世界観の捉え直しが生じることもある。

一般的に、個人の選択可能性の範囲が広まれば、そこに新たな倫理問題が発生してくる。現代における応用倫理学の背景にあるのは、現代人が様々な変化する社会関係のなかで生き、選択可能性は広がっているにもかかわらず、それぞれの領域の変化の仕方や変化の原因が異なっており、新たに発生する倫理問題に対して適用可能な規範や整合性のある実践的推論が見だしにくくなったからである。20世紀後半に展開された生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、ビジネス倫理学などの諸応用倫理学にこうした点は窺える。

上記の観点を踏まえつつ、「応用倫理学演習」では、生命倫理・医療倫理・環境倫理と関係の深い領域として「生命」を取り上げ、倫理学の射程とその変化、倫理学と自然観・自然科学・生命科学・人間学との関連を理解する。現代社会のなかでの倫理的なものの変化を明確にすることをめざす。

倫理思想史研究

Studies in the History of Ethics 2単位

倫理学を理解するためには、まず倫理学がどう始まったのか、倫理学は何を問題にしたのか、いかなる観点から問題にアプローチしたのか、またどのような解答を与えてきたのか、について理解しなくてはならない。そのために、古代から現代にいたるまでの倫理学の歴史を概観し、基本的な立場として現在でも意義あるものは何か、を詳細に検討する。こうした考察は、たんに歴史的な考察にとどまらず、今後私たちが倫理学を構想するとき、きわめて重要なヒントを提供するはずである。倫理学史を理解することは、同時に倫理学そのものを理解することでもある。

現代倫理学研究

Studies in Contemporary Ethics 2単位

現代社会は、ポストモダン時代と呼ばれ、価値の多様化ないし虚無化が進行しつつある。今まで信じられてきた価値は、根本から信用をなくし、

人々の間では信頼感が崩壊し、道徳的規範は失墜してしまった。こうした時代に、倫理学はいったい何ができるのか。こうした問題意識のもとで、倫理学の現代的な意義を検討する。この講義では、現在ドイツやフランス、イギリスやアメリカで展開されている議論を紹介するとともに、イタリアの論争などにも触れ、倫理学の今後の展望を解説する。

認知行動研究

Studies in Cognitive and Behavioral Science 2単位

人間は多様な刺激のなかから、どのようにして特定の対象を知覚・認識・判断しているのか。人間が行動するとき、何に関心を持ち、何を目的としているのか。そのとき、意識はいかなる働きをし、また言語はどのように関与しているのか。人間の認知行動は、一方では他の動物とは異なっており、他方では人工知能やロボットとも違っている。この相違は、いったい、どこにあるのか。心理学、脳神経科学、情報科学などの知見を参照するとともに、現代の科学哲学における議論も検討して、人間の認知と行動の特質を明らかにする。

認知行動演習

Seminar in Cognitive and Behavioral Science 2単位

人間の認知行動に関する諸問題の中から特に意思決定の問題を取り上げる。意思決定（行動選択）の説明モデルとして、欲望ベースの説明モデルと判断ベースの説明モデルのどちらが適切なのかという問題を、意志の弱さ（アクラシア）という現象に即して考える。また、日常の行動選択において大きな役割が与えられている意志力という概念を、実証的データにもとづいて、定量的に明確にする試みを検討する。さらに、現代社会において自己コントロールが過度に尊重されることがもたらす様々な副作用的現象についても考察する。文献講読とディスカッションを中心に授業を行う。

認知論史研究

Studies in the History of Cognitive Science 2単位

古代の哲学的認識論からフロイトの理論に至る認知論の歴史を、現代認知科学成立の前史として、概観する。認知論の歴史のトピックとして以下のものを取り上げる。アリストテレスにおける理論知と実践知の分離、デカルトにおける表象概念の成立、思考を計算と見なすホッブズの理論、徹底した経験論者として認識論の自然化を行ったヒューム、カントによる認知の形式化の試み、ヴントの実験的方法、フレーゲによる計算機革命の基礎付け、ジェームズによる機能主義の明確化、そして、フロイトにおける学際的・包括的な心のモデルの提示。これらの歴史が現代認知科学の基盤を用意したことを確認すると同時に、認知科学に汲み尽くされていない豊富な認知論的知見の可能性を含むことについても考察する。

人間行動学研究

Studies in Behavioral Science 2単位

人間行動は、その基底になる物質過程・生命過程・生理過程・心理過程・集団過程・社会過程へと複雑・高度な段階にいたるさまざまなレベルの重層過程を含んでおり、また各レベルでの行動体系は、それぞれ固有の特性を示し、独自の法則に従っている。こうした物質から社会行動までの全体系の系列のなかで行動の概念を、それぞれのレベルでの形態毎に規定してゆくことが人間行動学の課題である。

「人間行動学研究」では、まず、こうした人間行動について、そのテーマと広がりを見通す。ついで、これら人間行動を「人間の記号行動」という観点からいわば縦断的に捉え返す。さらに、人間の記号行動において重要な位置にある「言語」について、「言語行為論」に焦点を絞って検討する。

ニューロエシックス研究

Studies in Neuroethics 2単位

脳科学の進展に伴って、生命倫理学からニューロエシックスが成立した。ニューロエシックスには、基本的に二つの内容が含まれる。一つは、「脳神経科学の倫理学」であり、脳神経科学研究に対して倫理的な観点から制限を加えたり、指示を与えたりする。もう一つは、「倫理学の脳神経科学」といわれるものであり、倫理的判断がいかなる脳神経の過程によって営まれているかを解明する。従来から、心と脳の関係は問われ続けてきたが、21世紀に入って新たな段階に至っている。この講義では、二つの側面からニューロエシックスの現在を確認し、未来のあり方を展望する。

脳科学と人間

Brain Science and Humans 2単位

人間の理解とは、その心の理解である。人間の心はそれをはぐくんできた社会を反映する。また、我々は脳が心をつむぎだすとも信じている。したがって、人間の理解とはそれが適応する社会に対する脳の働きを理解することに他ならない。そのために、本講義では、脳の解剖学的・生理学的理解に、情報科学、認知科学、言語学、哲学、社会学、経済学など周辺諸科学の知識をどのように融合させていくかについて考え、総合的に人間をとらえなおすことを試みる。

脳科学基礎

Fundamentals of Neuroscience 2単位

脳科学研究で使われる主要な方法と、それらの方法を使用した重要な研究について紹介・解説する。対象分野は、神経科学だけでなく、電気生理学・解剖学・神経心理学・実験心理学など関連する周辺領域も含む。必要に応じて、履修者に関連論文を読みその内容をレポートすることを求める。履修者は、学部での講義「脳の科学」程度の知識が

あることを前提とし、授業では個々の研究論文の紹介が中心となる。

脳科学と社会

Brain Science and Society

2単位

ここ数十年で脳科学は目覚ましい発展を遂げ、ヒトの脳のはたらきを直接に研究することができるようになってきた。その結果、脳科学は、生物としてのヒトの行動だけでなく、社会に生きる人間の心をも解明しようとしている。たとえば私たちの意思決定は、他者を意識することにより、大きく左右される。このような社会的場面特有の脳のはたらきは、非社会的場面における脳のはたらきとどう異なっているのかについての理解を深める。

研究指導 I

Master's Research Seminar I

2単位

この研究指導 I で行うのは、実際に修士論文を執筆するに先立って、必要不可欠な文献を集め、論文全体の構想を練り上げることである。まず、研究テーマを設定し、それに関する基本文献を確定する。つぎに、研究テーマに関連した重要な基

本文献を収集し、その内容を検討整理しておく。他方、基本文献については、集中的に読解し、テキストの構造を理解するように努めなくてはならない。こうした準備作業を行いながら、修士論文の全体的な構想を着想し、各部分について簡単なメモを作っておく。こうしたメモを参考しながら、修士論文を概略的な目次を作成する。

研究指導 II

Master's Research Seminar II

2単位

研究指導 II では、実際に論文を書き上げるに当たって、内容を検討するだけでなく、論文の書き方を個別的に指導する。まず、修士論文における問題設定について、その意義と研究史を踏まえ、その上でオリジナルな議論をどう作っていくかを指導する。つぎに、論文の各部分の内容を厳密に検討するとともに、論文の書き方そのものについてもチェックする。また、参考文献の引用について、必要な文献が適切に引用されているかどうかを確認する。さらに、研究論文として、研究者倫理をきちんと遵守しているかどうかをも問題にする。出来上がった論文については、第3者的な立場から、自己批評させ、論文の客観性を確保するように努める。